

活動名：第19回喜多方市長杯蔵のまちフットサルフェスティバル4年生大会

日程：平成26年12月20日（土）～21日（日）

会場：喜多方市押切川公園体育館

参加：4年生リフティング上位選抜者 8名

帯同：設楽・渡辺コーチ

報告：設楽コーチ

結果：優勝（16チーム参加）

予選リーグ

●BOAVISTAJr ○喜多方東コラソン ○アクティーバ会津
ブロック2位通過

決勝トーナメント

○会津サントス 3-3 PK3-1

○北部FC（山形）4-1

決勝 ○BOAVISTAJr 4-0

喜多方サッカー協会から毎年ご招待をいただき参加させていただいている蔵のまちフットサルフェスティバルに参加してきました。

4年生チームとして参加したこの大会ですが、4年生は人数が多いことから3グループに分かれ、今回の大会はリフティング上位者8名が対象でした。

さて、この8名の選手たちですが、今年はフットサル競技として初でした。また、そのための練習やチームとしての作戦などの練習は全くしない状況での大会出場でした。

アーレは今までも試合前に参加する選手たちでチームとしての戦術練習などは全くしていないので、いつもと同じ状況での即席チームで挑みました。

郡山から2時間以上かかる会場での大会なので、朝早くから子どもたちを送迎して保護者の方々は毎年冬場の喜多方での大会は大変です。しかし、子どもたちは試合がしたくて元気いっぱいな様子でした。

今回は雪が降っていませんでしたので道路状況は良かったです。

選手たちとのミーティングとして、自分たちの大会に対する気持ちを一人一人確認しました。みんなは順番に「優勝したい！」と言いました。簡単な気持ちで「優勝したい！」と言っているように聞こえ、私は気持ちだけでは優勝はできないぞと話しました。

ここに来れなかった仲間（アール4年生たち）のためにも頑張る姿を見せること、選ばれた誇りを持つこと、相手より勝ちたいという気持ちを一生懸命にプレーで出すこと、コ

一ちに言われたことをチャレンジしてみることに、といった簡単なミーティングをしてみんなの気持ちを一つにしました。



予選リーグ三試合が始まりました。

初戦の Boavista Jr さんとの戦いは、今回の大会で選手たちの気持ちを変えた戦いでした。

1：1で後半も攻め込まれる試合内容で、終了2秒前に得点されて1：2で惜敗。

選手たちも放心状態な顔つきでベンチに戻ってきました。

さっきまで優勝！と言っていた選手たちですが、初戦の敗退で信じられないような状態でした。私も心の中ではこのメンバーは優勝できると思っていたのでショックでした。



残りの試合は必ず勝とうと気持ちを切り替えて、2試合を終えて何とか2位通過でき、決勝トーナメントに進出しました。

選手たちも決勝トーナメントに進出できて、初戦の敗戦は吹っ飛び、明日の試合での「優勝」を再び目標に掲げ、気持ちを切り替えていました。

この喜多方大会では、過去参加した先輩たちは「準優勝」という結果が最高です。初戦を敗退したことから今回の大会も厳しい結果になると実は私は思っていました。

二日目は2試合目の9時40分からの試合開始でしたので、8時45分に会場集合でとても早い時間の集合となりました。朝5時起床の保護者の方々の送迎のご協力を得て、とても早い時間に集まった選手たちでした。その様子からは優勝してやるぞといった顔つきはなく眠い顔をして車の中で起きたばかりのような様子でした。

スタートのエンジンがかかるのが遅い選手たちなので、昨日の初戦と同様に初戦は気をつけないといけないと戦略を練りました。

怪我をしている選手はいましたが、元気な様子で試合には支障がないようだったので、昨日のプレーからポジションを組みました。

二日目は、部活がお休みとのことから中学生のOB(兄たち)も来てくれて、弟たちのサポートをしてくれました。アップの手伝いや備品の持ち方など大変助かりました。

さて、初戦は強豪の会津サントスさんでした。前評判からもとても強いとのことでしたので、強い気持ちで挑ませましたが、先制点を奪われ、その後追加点をとられ、厳しい前半を終えました。昨日の初戦より厳しい戦いでした。

ハーフタイムでは、これで終わったら目標の優勝はできないと再び選手たちの気持ちを奮い立たせ気合い十分で後半に挑みました。緊迫した状況だったので、ベンチの3名の選手たちには交代を我慢してもらい前半のメンバーで開始しました。

すると、流れが代わり3点取られていた状況から3点を奪い返し、PK合戦を得ました。凄い同点劇です。会場は盛り上がり、いざ3名のPK合戦へ・・・。



3名ですが、同点の場合はサドンデスになるので8名全員が蹴ることになるのですが、中には蹴りたくないと言ってくる選手もいて、何とか蹴りたいメンバーで終了して勝利を決めてくれることを祈りました。

すると、相手の2人目に真っ正面に大人でも避けるような強いシュートを逃げずに GK 緑川はると君が受け止め、見事逆転劇で勝利しました。

8人の中には GK のポジションを希望する選手はいなく、当然 GK 練習もしたことがないので、文句を言わずにみんなのために GK を多くやってくれたはると君には拍手です。

ドラマのような試合展開をした選手たちは、一挙に自信がついた様子で、ここからアーレのサッカー（フットサル）が爆発し始めました。

準決勝の北部 FC さんは毎年上位に上がる強豪チームです。しかし、アーレの勢いは止まらず、しっかりと勝利して決勝の舞台をものにしてくれました。

決勝は初戦敗退の BOAVISTAJr さんとなりました。

Boa 監督さんからは、初戦は勝利したけど逆にプレッシャーを感じるといったお話も受け、一度負けたチームの方が気持ちが楽であると感じました。やはり選手たちも自分たちで絶対に負けないと気持ちを入れ替えていた様子でした。

入場行進を音楽を流してもらい更新し、会場は決勝戦のムードいっぱいとなりました。運営されている喜多方のスタッフの方々は最高の舞台を作ってくれて大変嬉しく、またこの舞台に立てることができ幸せを感じました。



初戦で戦っているため、お互いに手の内がわかっているのに、両チームの選手たちの気持ちの勝るほうが勝つのではといった決勝戦でした。

しかし、決勝戦は昨日の選手たちとは全く違う、プレッシャーは早く、あたりの強く、自分たちの思うように伸び伸びとプレーしてくれました。やはり、5試合のドラマチックな戦い方をしてくれて自信のついた選手たちの勢いは止まらず、圧倒的な闘いをしてくれて見事みんなの目標であった「優勝」を手に入れました。



今回の大会では、私も一戦一戦、胃が痛くなるような厳しい戦いでしたが、鳥肌の立つような感動する試合を見せてくれた選手たちを誇らしく思いました。

アーレの伝統である即席チームの戦いは、一戦一戦に形ができてきて、チームワークが育まれ、みんなの気持ちも自然と融合していく様子は本当にすごいと思えました。久しぶりに感動させられました。

試合ではなかなか勝利の結果は出ないものですが、普段、頑張ってスキルアップに励んでいる選手たちは、どんな状況の試合になっても、どんな相手にも自分が今できるプレーを精いっぱい披露してくれました。そして数少ない大会での貴重な試合をしっかりと楽しみ頑張ってくれました。

今回は喜多方での初優勝を創部11年目にしてやっと獲得できましたが、今までのOB、OGのみんなの歴史から今のアーレがあり、このような素晴らしい結果を得ることができたと思います。

子どもたちの送迎や応援してくれた保護者の方々には試合中の大きな声援は、子どもたちの励みになりました。有難うございました。そして、毎年この大会にご招待いただき運営に携わってくださる喜多方サッカー協会の方々、思い出に残る試合を相手として戦ってくれた各チームの皆さんに感謝します。有難うございました。

週末は5年生大会です。まだまだ会場にはアーレ4先生たちの熱い戦いの余韻が残っています。ぜひ、今年最後の戦いを勝っても負けても悔いのないよう、諦めないアーレサッカーで頑張っしてほしいですね。Allez! Allez! (フランス語で「がんばれ!」)

